

平成30年度 男女共同参画に関する意識調査結果

《概要版》

○ 調査目的

男女共同参画社会の実現に向け、市民の男女共同参画に関する意識や実態を把握し、調査結果は第2次男女共同参画プランの進捗管理に用いるとともに、次期プラン策定の基礎資料とするもの。

○ 調査内容

1. 男女共同参画に関する言葉について
2. 家庭生活について
3. 職業について
4. 男女の人権について
5. 男女共同参画について
6. セクシュアル・マイノリティについて

○ 調査対象 帯広市に住所を有する20歳以上の男女1,000人

○ 抽出方法 地区別・男女別・年齢階層別無作為抽出

○ 調査方法 郵送による自記式アンケート

○ 調査期間 平成30年4月27日～平成30年5月15日

回答の状況

○ 回収結果 有効発送数 995人 回収数 391人 回収率 39.3%

(※前回調査は、平成25年度37.4%)

回答者の属性

(1) 男女別回答数

	回答数	比率
女性	238	60.9%
男性	151	38.6%
その他	2	0.5%

(2) 年齢別回答数

	回答数	比率
20～29歳	30	7.7%
30～39歳	41	10.5%
40～49歳	58	14.8%
50～59歳	78	19.9%
60～69歳	85	21.7%
70歳以上	99	25.3%
無回答	0	0.0%

(3) 既婚・未婚別回答数

	回答数	比率
現在結婚している(事実婚などを含む)	279	71.4%
結婚したことはあるが現在独身(死別含む)	56	14.3%
結婚したことがない(未婚)	54	13.8%
無回答	2	0.5%

(4) 家庭形態別回答数(既婚者のみ)

	回答数	比率
共働き	135	48.4%
共働きではない	119	42.7%
その他	11	3.9%
無回答	14	5.0%

調査結果について

(※「前回調査」は平成25年度実施)

1. 男女共同参画に関する言葉について

(1) 見たり聞いたりしたことのある言葉について

「DV（配偶者からの暴力）」と答えた人の割合は95.7%と最も高く、前回調査より2.2ポイント増加している。次いで「男女雇用機会均等法」89.3%、「育児介護休業法」73.9%で、それぞれ前回調査より6.1ポイント増加、1.3ポイントの減少となっている。

【問1】言葉の認識（複数回答）

(%、ポイント)

	今回調査	前回調査	増減
DV	95.7	93.5	2.2
男女雇用機会均等法	89.3	83.2	6.1
育児介護休業法	73.9	75.2	△1.3
男女共同参画社会	62.4	58.7	3.7
ジェンダー	51.2	28.4	22.8
ワーク・ライフ・バランス	44.0	32.3	11.7
女子差別撤廃条約	43.0	42.7	0.3
女性活躍推進法	39.9	—	—
ポジティブ・アクション	20.2	19.9	0.3

※女性活躍推進法…平成30年度調査追加項目

2. 家庭生活について

(1) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について

女性は「賛成」が25.2%、「反対」が65.5%で、男性は「賛成」が33.1%、「反対」が53.0%と、男女とも前回調査より賛成が減少し、反対が増えている。

【問2】「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方

(%、ポイント)

	今回調査			前回調査			増減		
	全体	女性	男性	全体	女性	男性	全体	女性	男性
賛成	28.2	25.2	33.1	38.0	33.3	43.9	△9.8	△8.1	△10.8
反対	60.9	65.5	53.0	50.7	54.2	46.4	10.2	11.3	6.6

「賛成」～「賛成」、「どちらかといえば賛成」の計・

「反対」～「反対」、「どちらかといえば反対」の計・

(2) 家庭での家事、育児、介護の役割分担について

「どちらでも手のあいている方が家事、育児、介護をすればよい」が男女とも最も多く、女性が65.1%、男性が61.6%となっており、いずれも前回調査より増加している。(前回調査 女性52.1%、男性47.3%)

【問3】家庭での家事、育児、介護の役割分担

(%)

	どちらでも手のあいている方が家事、育児、介護をすればよい	男女とも同じように家事、育児、介護を行うのがよい	家事、育児、介護は主として女性が行い、男性は女性を手伝う程度でよい	男性は家事、育児、介護をしなくてもよい
全体	63.7	23.0	9.0	0.5
女性	65.1	23.1	7.1	0.8
男性	61.6	23.2	11.3	0.0

次いで「男女とも同じように家事、育児、介護を行うのがよい」が女性23.1%、男性23.2%となっている。

また「家事、育児、介護は主として女性が行い、男性は女性を手伝う程度でよい」は9.0%で、前回調査より18.3ポイント減少している。(前回調査27.3%)

(3) 仕事・家庭生活等の優先度について（希望と現実）

男女ともに希望は、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」が最も多いが（女性 32.4%、男性 27.8%）、「現実」の優先度では、

【問5、6】「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」優先度 (%)

	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「地域・個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」を優先	「仕事」と「地域・個人の生活」を優先	「家庭生活」と「地域・個人の生活」を優先	全てを優先
女性希望	3.4	18.9	5.5	32.4	3.4	17.6	17.2
女性現実	20.6	26.5	3.8	19.7	5.0	16.0	5.0
男性希望	7.3	12.6	5.3	27.8	5.3	13.2	25.2
男性現実	36.4	11.9	5.3	18.5	8.6	9.3	7.3

女性は「家庭生活を優先」（26.5%）、男性は「仕事を優先」（36.4%）がそれぞれ最も多い結果となっている。

3. 職業について

(1) 女性が職業を持つことに関する考え方について

男女ともに、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が最も多く（女性 37.0%、男性 43.7%）、次いで「子どもができたなら職業を

【問7】女性が職業を持つことについて (%)

	子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい	子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	子どもができるまでは、職業をもつ方がよい	結婚するまでは、職業をもつ方がよい	女性は職業をもたない方がよい
全体	39.6	34.5	5.1	3.8	1.5
女性	37.0	33.6	4.2	2.5	2.5
男性	43.7	35.8	6.6	6.0	0.0

やめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」（女性 33.6%、男性 35.8%）となっている。

過去からの調査結果の推移を見ると「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」という考え方が増加の傾向にある。（H20年 26.5%、H25年 33.6%、今回調査 39.6%）

(2) 女性の働きやすさについて

「大変働きやすい」「ある程度働きやすい」と答えた人は 31.7%で、「働きやすいとは思わない」「あまり働きやすいとは思わない」と答えた人は、53.2%であった。

【問8-1】現在の社会での女性が働きやすさ (%)

	全体	女性	男性
働きやすい	31.7	28.6	37.1
働きやすいとは思わない	53.2	54.2	51.0

「働きやすい」～「大変働きやすい」、「ある程度働きやすい」の計
「働きやすいとは思わない」～「働きやすいとは思わない」、
「あまり働きやすいと思わない」の計

「働きやすいとは思わない」と答えた

人に理由を問う設問では、男女ともに「育児施設が十分整備されていない」や「労働条件が整っていない」、「働く場が限られている」といった働くための条件・環境に関することが上位3項目を占めた。

【問8-2】女性が働きやすくない状況と思う理由（複数回答） (%)

	全体	女性	男性
育児施設が十分整備されていない	76.4	73.6	80.5
労働条件が整っていない	68.8	71.3	64.9
働く場が限られている	54.3	55.0	51.9
昇進、教育訓練等に男女の差別的扱いがある	45.2	42.6	50.6
結婚・出産退職の慣行がある	40.4	37.2	45.5
家庭の理解、協力が得にくい	38.5	45.7	24.7
「男は仕事、女は家庭」という社会通念がある	37.0	38.0	36.4
能力発揮の場が少ない	21.6	15.5	32.5

また、「昇進、教育訓練等に男女の差別的扱いがある」、「結婚・出産退職の慣行がある」、「家庭の理解、協力が得にくい」、「男は仕事、女は家庭という社会通念がある」といった社会慣行・通念を理由に選んだ人は 40%前後となっている。

4. 男女の人権について

(1) DV、セクハラ被害経験等について（複数回答）

女性のDV被害は10.1%、セクハラ被害は22.3%で、男性のDV・セクハラ被害はいずれも1.3%となっており、DV・セクハラともに被害の割合は女性が多くなっている。

【問10-1、11】DV、セクハラについての経験等 (%)

	DV			セクハラ		
	全体	女性	男性	全体	女性	男性
自分が直接被害を受けた経験がある	6.6	10.1	1.3	14.1	22.3	1.3
相談を受けたことがある	12.0	13.0	10.6	8.2	9.2	6.6
相談を受けたことはないが、当事者を知っている	16.4	17.6	13.9	10.2	8.0	13.9
テレビや新聞などで話題になっていることは知っている	75.7	76.1	76.2	79.8	80.7	78.8
見聞きしたことはない	14.6	12.6	17.2	15.3	14.3	16.6

DV被害を受けた経験のある人に、相談先について質問したところ、友人・知人53.8%、家族・親族46.2%で、医師、弁護士、市の女性相談等と続いている。

一方で、DV被害を受けても「相談をしなかった」と回答した人が26.9%あった。

5. 男女共同参画について

(1) 各分野での男女の地位の平等感について

「平等」と答えた人の割合は、「学校教育の場」において最も高く58.8%となっているが、その他の分野においては30%を下回っている。また、「女性の方が優遇されている」とする人の割合は、すべての分野において10%未満であるのに対し、「社会通念・慣習など」、「政治の場」、「社会全体」においては、「男性の方が優遇されている」とする人の割合が、70%を超える結果となっている。

【問14】各分野での男女の地位の平等感 (%)

	今回調査		
	女性優遇	男性優遇	平等
社会通念・慣習など	2.3	78.5	7.4
政治の場	1.5	75.5	10.2
社会全体	5.6	73.6	9.2
職場	6.9	65.7	20.7
家庭生活	9.2	52.1	29.4
法律・制度	6.9	49.6	24.8
学校教育の場	4.1	16.9	58.8

「男性優遇」～「男性が非常に優遇」、「どちらかと言えば男性」の計
「女性優遇」～「女性が非常に優遇」、「どちらかと言えば女性」の計

6. セクシュアル・マイノリティについて

(1) セクシュアル・マイノリティという言葉について

男女ともに、「言葉も意味も知っていた」が最も多く（女性59.7%、男性57.0%）、次いで「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」が23.0%で、「言葉も意味も知らなかった」が17.9%となっている。

【問17】セクシュアル・マイノリティという言葉について (%)

区分	全体	女性	男性
言葉も意味も知っていた	58.6	59.7	57.0
言葉は知っていたが、意味は知らなかった	23.0	24.8	20.5
言葉も意味も知らなかった	17.9	14.7	22.5

Ⅲ 調査票

次の質問の答えで、該当する番号を回答用紙にご記入ください。

あなたご自身のことについてお伺いします

I あなたの性別をお答えください。

- 1 女性
- 2 男性
- 3 その他

II あなたの年齢はおいくつですか。(平成30年3月31日現在)

- 1 20～29歳
- 2 30～39歳
- 3 40～49歳
- 4 50～59歳
- 5 60～69歳
- 6 70歳以上

III あなたは現在結婚していますか。

- 1 現在結婚している(事実婚などを含む)
- 2 結婚したことはあるが、現在独身(死別含む)
- 3 結婚したことがない(未婚)

※ IIIで「1 現在結婚している」を選んだ方にお伺いします。あなたの家庭は共働き(パートタイムを含む)ですか。

- 1 はい
- 2 いいえ
- 3 その他(具体的に)

IV あなたは今、働いていますか。それはどのようなお仕事ですか。

- | | | |
|-----|---|--------------------------------|
| 自営業 | ├ | 1 農林漁業 |
| | ├ | 2 商工サービス業 |
| | ├ | 3 自由業(弁護士・作家・開業医など) |
| 雇用者 | ├ | 4 民間会社、工場、商工サービス業など(パートタイムを含む) |
| | ├ | 5 公務員、教員 |
| 無職 | ├ | 6 主婦(他に仕事を持たない) |
| | ├ | 7 学生 |
| | ├ | 8 その他無職 |
| その他 | ├ | 9 その他(具体的に) |

言葉についてお伺いします

問1 次の言葉のうち、見たり聞いたりしたことがあるものを、いくつでもお選びください。

- 1 男女共同参画社会
- 2 育児介護休業法
- 3 女子差別撤廃条約
- 4 ジェンダー（社会的、文化的に形成された性別）
- 5 ポジティブ・アクション（積極的改善措置）
- 6 DV（配偶者からの暴力）
- 7 男女雇用機会均等法
- 8 女性活躍推進法
- 9 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）
- 10 見たり聞いたりしたものはない

家庭生活についてお伺いします

問2 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどのように思いますか。次の中から、1つだけお選びください。

- 1 賛成
- 2 どちらかといえば賛成
- 3 どちらかといえば反対
- 4 反対
- 5 わからない

問3 一般的に、家庭での家事、育児、介護の役割分担について、あなたはどのように考えますか。次の中から、1つだけお選びください。

- 1 男女とも同じように家事、育児、介護を行うのがよい
- 2 どちらでも手のあいている方が家事、育児、介護をすればよい
- 3 家事、育児、介護は主として女性が行い、男性は女性を手伝う程度でよい
- 4 男性は家事、育児、介護をしなくてもよい
- 5 その他（具体的に)
- 6 わからない

問4 今後、男性が家事、育児、介護、町内会やボランティアなどの地域活動に、積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から、いくつでもお選びください。

- 1 男性が家事、育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
- 2 男性が家事、育児などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
- 3 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること
- 4 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること
- 5 社会の中で、男性による家事、育児などについても、その評価を高めること
- 6 男性による家事、育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること
- 7 労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
- 8 男性の家事、育児などについての関心が高まるよう啓発や情報提供を行うこと
- 9 男性が家事、育児などを行うための、仲間（ネットワーク）作りをすすめること
- 10 その他（具体的に _____）
- 11 わからない

問5 生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い等）の優先度についてお伺いします。まず、あなたの希望に最も近いものを次の中から、1つだけお選びください。

- 1 「仕事」を優先したい
- 2 「家庭生活」を優先したい
- 3 「地域・個人の生活」を優先したい
- 4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
- 5 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 6 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 7 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 8 わからない

問6 それでは、あなたの現実（現状）に最も近いものを次の中から、1つだけお選びください。

- 1 「仕事」を優先している
- 2 「家庭生活」を優先している
- 3 「地域・個人の生活」を優先している
- 4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
- 5 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 6 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 7 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 8 わからない

職業についてお伺いします

問7 女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。次の中から、1つだけお選びください。

- 1 女性は職業をもたない方がよい
- 2 結婚するまでは、職業をもつ方がよい
- 3 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
- 4 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
- 5 子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
- 6 その他（具体的に
- 7 わからない

問8-1 現在の社会は女性が働きやすい状況にあると思いますか。次の中から、1つだけお選びください。

- 1 大変働きやすい状況にあると思う
- 2 ある程度働きやすい状況にあると思う
- 3 あまり働きやすい状況にあるとは思わない
- 4 働きやすい状況にあるとは思わない
- 5 一概にはいえない
- 6 わからない

問8-2 問8-1で「3 あまり働きやすい状況にあるとは思わない」または「4 働きやすい状況にあるとは思わない」とお答えの方に伺います。

それは、どのような理由からでしょうか。次の中から、いくつでもお選びください。

- 1 働く場が限られている
- 2 能力発揮の場が少ない
- 3 労働条件が整っていない
- 4 育児施設が十分整備されていない
- 5 昇進、教育訓練等に男女の差別的扱いがある
- 6 結婚・出産退職の慣行がある
- 7 「男は仕事、女は家庭」という社会通念がある
- 8 家庭の理解、協力が得にくい
- 9 その他（具体的に
- 10 わからない

男女の人権についてお伺いします

問9 あなたが、女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことについてですか。次の中から、いくつでもお選びください。

- 1 売春・買春
- 2 女性の働く風俗営業
- 3 家庭内での夫婦間の暴力やパートナーからの暴力
- 4 セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）
- 5 女性のヌード写真などを掲載した雑誌
- 6 女性の体の一部や媚びたポーズ・視線を、内容に関係なく使用した広告など
- 7 女性の容姿を競うミス・コンテスト
- 8 ストーカー行為（つきまとい行為）
- 9 痴漢行為
- 10 昇給・昇進・給与の格差など、職場における男女の待遇の違い
- 11 男女の固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）
- 12 その他（具体的に)
- 13 わからない

問10-1 あなたは、配偶者や恋人、パートナーなど親密な関係にある人からの暴力、いわゆる「ドメスティック・バイオレンス（DV）」について、経験したり、見聞きしたりしたことがありますか。次の中から、いくつでもお選びください。

- 1 自分が直接被害を受けた経験がある
- 2 相談を受けたことがある
- 3 相談を受けたことはないが、当事者を知っている
- 4 テレビや新聞などで問題になっていることは知っている
- 5 見聞きしたことはない
- 6 その他（具体的に)
- 7 分からない

問10-2 問10-1で「1 自分が直接被害を受けた経験がある」とお答えの方に伺います。あなたは、ドメスティック・バイオレンス（DV）について、どこかに相談しましたか。次の中から、いくつでもお選びください。

- 1 家族・親族
- 2 友人・知人
- 3 警察
- 4 医師
- 5 弁護士
- 6 帯広市の女性相談
- 7 その他の行政の相談機関
- 8 民間の相談機関
- 9 相談しなかった
- 10 その他（具体的に)

問 11 あなたは、「セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）」について、経験したり、見聞きしたことがありますか。次の中から、いくつでもお選びください。

- 1 自分が直接被害を受けた経験がある
- 2 相談を受けたことがある
- 3 相談を受けたことはないが、当事者を知っている
- 4 テレビや新聞などで問題になっていることは知っている
- 5 見聞きしたことはない
- 6 その他（具体的に)
- 7 分からない

問 12 性犯罪や配偶者からの暴力など、女性に対する暴力をなくすために、どのようにしたらよいと思いますか。次の中から、いくつでもお選びください。

- 1 法律・制度の制定や見直しを行う
- 2 犯罪の取り締まりを強化する
- 3 捜査や裁判における担当者に女性を増やすなど、被害を受けた女性が届けやすいような環境をつくる
- 4 被害女性を支援し、暴力に反対する市民運動を盛り上げる
- 5 被害女性のための相談機関や保護施設を整備する
- 6 家庭における男女平等についての教育を充実させる
- 7 学校における男女平等についての教育を充実させる
- 8 メディア（テレビ、新聞、雑誌など）が自主的取り組みを強化し、暴力を無批判に取り扱わないようにする
- 9 過激な暴力表現を扱ったビデオソフト、ゲームソフト等の販売や貸出を制限する
- 10 その他（具体的に)
- 11 わからない

男女共同参画についてお伺いします

問 13 あなたは、女性の意見が政治や行政にどの程度反映されていると思いますか。次の中から、1つだけお選びください。

- 1 十分反映されている
- 2 ある程度反映されている
- 3 あまり反映されていない
- 4 ほとんど反映されていない
- 5 その他（具体的に)
- 6 わからない

問 14 あなたは、次にあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
1～6の中から、あなたの気持ちに最も近いものを1つだけお選びください。

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
(ア) 家庭生活で	1	2	3	4	5	6
(イ) 職場で	1	2	3	4	5	6
(ウ) 学校教育の場で	1	2	3	4	5	6
(エ) 政治の場で	1	2	3	4	5	6
(オ) 法律や制度の上で	1	2	3	4	5	6
(カ) 社会通念・慣習しきたりなどで	1	2	3	4	5	6
(キ) 社会全体で	1	2	3	4	5	6

問 15 問 14 でお聞きした分野において、女性のリーダーを増やすときに障害となるものは、何だと思いますか。次の中から、いくつでもお選びください。

- 1 必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと
- 2 女性自身がリーダーになることを希望しないこと
- 3 上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと
- 4 長時間労働の改善が十分ではないこと
- 5 保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと
- 6 保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと
- 7 その他（具体的に)
- 8 わからない

問 16 あなたは、帯広市が男女共同参画社会づくりをすすめていくために、どのようなことが重要だと思いますか。次の中から、いくつでもお選びください。

- 1 市民への男女平等、男女共同参画に関する情報提供や学習機会を充実する
- 2 悩みや、問題解決を助ける相談窓口や相談機能を充実する
- 3 育児・保育サービスの充実など子育て支援を強化する
- 4 高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する
- 5 女性の就職・再就職のための職業情報、職業訓練の機会を提供する
- 6 女性を政策や方針決定の場へ積極的に登用すること
- 7 企業や経営者に対して、男女がともに仕事と家庭を両立できる環境を整備するよう働きかけること
- 8 男女の平等と相互の理解や協力について広報・PRする
- 9 その他（具体的に)
- 10 わからない

セクシュアル・マイノリティ（性的少数者）についてお伺いします

セクシュアル・マイノリティ（性的少数者）とは、同性愛者、両性愛者、トランスジェンダーなど、「性」のあり方が典型的ではないと言われている人々のこと。

LGBTとは、セクシュアル・マイノリティの一部で、L（レズビアン：女性の同性愛者）、G（ゲイ：男性の同性愛者）、B（バイセクシュアル：両性愛者）、T（トランスジェンダー：性同一性障害など）の頭文字を合わせた言葉です。

問 17 あなたは、「セクシュアル・マイノリティ（性的少数者）」または「LGBT」という言葉（両方またはどちらか一方）を知っていましたか。次の中から、1つだけお選びください。

- 1 言葉も意味も知っていた
- 2 言葉は知っていたが、意味は知らなかった
- 3 言葉も意味も知らなかった

問 18 あなたは、セクシュアル・マイノリティについて、どのような考えやイメージをお持ちですか。次の中から、いくつでもお選びください。

- 1 性の多様性として認めるべきである
- 2 個人の人権として理解・尊重すべきである
- 3 自分自身やまわりに当事者がいるため、身近なことだと思う
- 4 テレビや新聞などで取り上げられることが多いので、何となくわかる
- 5 芸能人など公表する人が増えてきたので、身近に感じる
- 6 偏見や差別などを心配して、隠している人が多いと思う
- 7 個人の趣味・趣向の問題である
- 8 男は男らしく、女は女らしくあるべきである
- 9 その他（具体的に _____)
- 10 わからない

問 19 あなたは、セクシュアル・マイノリティに関して、理解をすすめるためにどのようなことが必要と考えますか。次の中から、いくつでもお選びください。

- 1 講座やセミナーなどで啓発
- 2 啓発パンフレットを配布
- 3 児童・生徒・学生への啓発
- 4 大人や社会への啓発
- 5 マスメディアを活用した周知
- 6 特に何もする必要はない
- 7 その他（具体的に _____)
- 8 わからない

最後までアンケートにご協力いただきありがとうございました。

回答用紙の最後に、「男女共同参画社会」に関するご意見、ご要望などがございましたら、ご記入願います。